

## 北陸自動車道のり面で越冬していたカメムシ類

富樫 一次\*・箱守 匠\*\*・山崎 裕志\*\*\*

Ichiji TOGASHI\*, Takumi HAKOMORI\*\* and Hiroshi YAMAZAKI\*\*\* :  
Hemipterous insects overwintered in the side slope of the Hokuriku Speedway

### Summary

Thirteen species of the hemipterous insects found in the side slope of the Hokuriku Speedway in winter season of 1997 and 1998. Among them, six species were the pest of the seed of the rice plant. The individual numbers of *Horridipamera inconspicua* (Dallas) which were overwintered in the end of the side slope were much more than the central portion of the side slope.

これまで高速道路のり面には、斑点米原因種としてのカメムシ類が生息しているといわれ、カメムシ類防除の目的で農薬散布やのり面に生育している草の草刈りが行われていた<sup>1)</sup>。しかし、高速道路のり面で越冬しているカメムシ類については殆ど調査されていない。筆者らは1997年12月及び1998年1月の2回にわたり北陸自動車道のり面で調査を行ったので、その結果について報告する。

### 調査方法

調査は、福井県内の穀倉地域をほぼ南北に縦断する北陸自動車道の南条町から金津町に至る区域内の14地点で行った(第1図)。調査は、のり面に生育している草を全域にわたり刈り取りをした全面草刈り地域(3地点)と、全く草を刈らない放置地域(11地点)とで行った。放置地域のうち2地点は遷移が進み樹林状となっていた。

各地点ごとに50×50cmのコードラートをのり面の中央部に2個、のり尻部に2個セットし、各コードラートごとにその内に存在する枯れ草や枯れ葉、それに地表から5cmの深さまでの土をとり、7mmメッシュの篩でふるい、直径15cm、深さ4.5cmの黄色容器上に落下した昆虫類をすべて捕獲した。

### 結果および考察

調査の結果得られたカメムシ類は第1表に示すような

13種で、そのうち斑点米原因種は6種であった。

斑点米原因種は両地域で見いだされた。全面草刈り地域では捕獲個体すべてが斑点米原因種であったのに対し、放置地域では捕獲個体の65.3%が斑点米原因種であった(第2表)。また、樹林地化した地点ではカメムシ類は2種2個体が越冬していたが、そのうちの1種は斑点米原因種であった。

これを斑点米原因種の種類数及び個体数からみた場合、全面草刈り地域では3種16個体であったのに対し、放置地帯では4種32個体であった。

次に、道路のり面の中央部とのり尻部における斑点米原因種の越冬個体数を比較した場合第3表のようになった。この場合、捕獲個体数の多いサビヒョウタンナガカメムシに限って見れば、全面草刈り地域でも放置地域でものり尻部での越冬個体数が中央部に比べて多かった。

この結果に基づけば、北陸自動車道のり面では、放置地域、全面草刈り地域ともかなりの個体が潜んでいるということができよう。また、のり面の中央部とのり尻部における斑点米原因種となるカメムシ類の越冬個体数を比較した場合、サビヒョウタンナガカメムシではのり尻部に多くの個体が潜んでいるといえよう。

### 摘 要

1. 北陸自動車道のり面では、全面草刈り地域、放置地域ともに、かなりの数の斑点米原因種と見られるカメムシ類が越冬していた。

2. のり面の中央部とのり尻部における越冬個体数を比較した場合、サビヒョウタンナガカメムシではのり尻部でより多くの個体が潜んでいた。

\* 石川県ふれあい昆虫館 Ishikawa Insect Museum, Yahata, Tsurugi-machi, Ishikawa 920-2121

\*\* 社団法人道路緑化保全協会

\*\*\* 株式会社ブレック研究所

第1表 道路のり面で越冬していたカメムシ類

Membracidae ツノゼミ科		
<i>Machaerotypus sibiricus</i> (Lethierry)	トビイロツノゼミ	1 個体
Reduviidae サシガメ科		
<i>Peirates turpis</i> Walker	クロモンサシガメ	1 個体
Lygaeidae ナガカメムシ科		
<i>Dimorphopterus pallipes</i> (Distant)	コバネナガカメムシ	3 個体
* <i>Horridipamera inconspicua</i> (Dallas)	サビヒョウタンナガカメムシ	37 個体
* <i>Paraparomius lateralis</i> (Scott)	キベリヒョウタンナガカメムシ	7 個体
* <i>Togo hemipterus</i> (Scott)	コバネヒョウタンナガカメムシ	1 個体
Coreidae ヘリカメムシ科		
<i>Hygia opaca</i> (Uhler)	ツマキヘリカメムシ	1 個体
Rhopalidae ヒメヘリカメムシ科		
* <i>Rhopalus maculatus</i> (Fieber)	アカヒメヘリカメムシ	1 個体
Cydnidae ツチカメムシ科		
<i>Geotomus pygmaeus</i> (Dallas)	ヒメツチカメムシ	9 個体
Pentatomidae カメムシ科		
* <i>Scotinophara lurida</i> (Burmeister)	イネクロカメムシ	1 個体
<i>Scotionphara scotti</i> Horvath	ヒメクロカメムシ	1 個体
* <i>Eysarcoris lewisi</i> (Distant)	オオトゲシラホンカメムシ	1 個体
<i>Zicrona caerulea</i> (Linnaeus)	ルリクチブトカメムシ	1 個体
計	7 科 13 種	65 個体

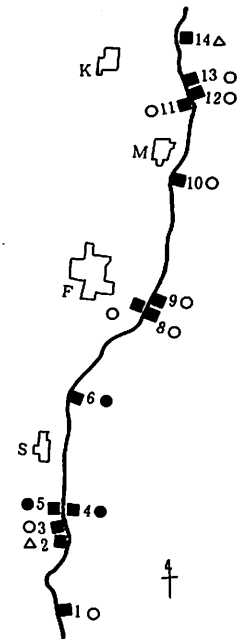
注) \* : 斑点米原因種

第2表 各調査区別捕獲数と斑点米原因種個体数

調査区	全捕獲虫数	斑点米原因種数
全面草刈り区	16	16
放置区	49	32

第3表 各調査区別中央部とのり尻部における斑点米原因種個体数

斑点米原因種名	全面草刈り区		放置区	
	中央部	のり尻部	中央部	のり尻部
サビヒョウタンナガカメムシ	3	11	5	18
キベリヒョウタンナガカメムシ	0	0	4	3
コバネヒョウタンナガカメムシ	0	0	1	0
アカヒメヘリカメムシ	1	0	0	0
イネクロカメムシ	0	0	1	0
オオトゲシラホンカメムシ	0	1	0	0
計	4	12	11	21



第1図 北陸自動車道での調査地点を示す概略図

注) ■ 1~14 : 調査地点の位置, ● : 全面草刈り地点, ○ : 放置地点, △ : 樹林化した地点, F : 福井, K : 金津, M : 丸岡, S : 鯖江

引用文献

- 1) 日本道路公団新潟建設局・(社)道路緑化保全協会  
1990. 北陸稲作地域ののり面植生に関する調査研究

報告書.

- 2) 友国雅章監修 1993. 日本原色カメムシ図鑑. 全国  
農村教育協会, 東京. 380pp.

(1999年2月4日受領)